

クビアカツヤカミキリの発生に警戒しましょう

ウメ、モモやサクラなどのバラ科樹木を衰弱・枯死させるクビアカツヤカミキリの発生地域が全国的に拡大しています。大阪府や奈良県など近隣府県で発生しており、滋賀県でも7月14日に本種の成虫が確認されました。

クビアカツヤカミキリのまん延防止には、早期の発見と対策が重要です。生態と防除法について理解し、発生に警戒しましょう！

本虫の発生を確認した場合は、病害虫防除所までご連絡ください。

クビアカツヤカミキリ（学名：Aromia bungii）の生態について



成虫

体に斑点はなく、胸部が赤い。



株元のフラス



フラスは“ひも状”

幼虫が株元に大量のフラス（幼虫の糞と木くずが混ざったもの）を排出します。本虫のフラスはひも状につながっていることが特徴です。

【原産地】●中国、台湾、朝鮮半島、ベトナムなど。

※特定外来生物に指定されており、運搬や飼育が法律で禁止されています。

【特徴】●成虫の体長は2.5～4 cm。全体的に光沢のある黒色で、首（胸部）が赤い。

【国内での発生】●16都府県（近隣府県では愛知県、三重県、大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県、京都府で発生。2025年7月17日時点）

【生態と被害】●ウメ、モモ、スモモ、サクラなどのバラ科樹木に発生します。

●成虫の発生時期は6月～8月頃で、樹上でよく見られます。

●幼虫が木の内部を摂食することで樹木を衰弱、枯死させます。

この時、ひも状につながったフラスを樹木の株元に大量に排出します。

●幼虫は樹木内で基本的に2年かけて成長し蛹になります。春～秋にかけて樹木内を摂食するため、フラスの排出は4月～10月によくみられます。写真提供：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所



被害木（断面）

内部に穴が開き、枯死します。

調査と防除方法について

調査

●生産園地でフラスの排出を確認した場合、本虫の発生が疑われます。該当樹木を中心に、6月～8月頃（成虫発生時期）に成虫の有無を調査します。

物理的防除

●成虫の捕殺：成虫は、見つけ次第捕殺します。

●幼虫の刺殺：フラスを排出口からかき出し、長い針金などを差し込んで幼虫を刺殺します。ただし、幼虫は樹木内を不規則に食べ進むため、針金が届かない場合もあります。

●ネット被覆：樹内から発生する成虫の拡散を防ぎます。目合い4 mm以下のネットなどを地際から2 m程度の高さまで樹幹に巻き付けます。ネットは樹幹に密着させず余裕を持たせて巻き付け、上下は針金やペグで固定します。成虫が発生するまでに被覆すると最も効果が高いです。

薬剤防除

農薬使用時にはラベルをよく読み、適切に使用します。

●樹上の成虫：6月～8月頃に殺虫剤を樹幹部に散布します。

●樹内の幼虫：フラスを排出口からかき出し、スプレー剤を注入します。